

改正人國記

ル 3
374
2



門 3
號 574
卷 2

東山道八國

近江

當國の風俗ハ賢侘相交たる風多し。されども賢の

くハ少侘ハ多るべし。身持と手やして己の非を隠

して善とてぬ。さらたよそ外トリ皇とこれハは國の

人ハ他國の風に携て見ゆる也。あまを辭言に金の如し。

夫金よ品あり。黄金あり。白銀あり。銅。弘湯。鉄。時。金。ふ

して各其性異ちる。此國の風。金の内も。合銀すく

あまがめし。故に侘のく多るべし。也。賢も侘も其尤

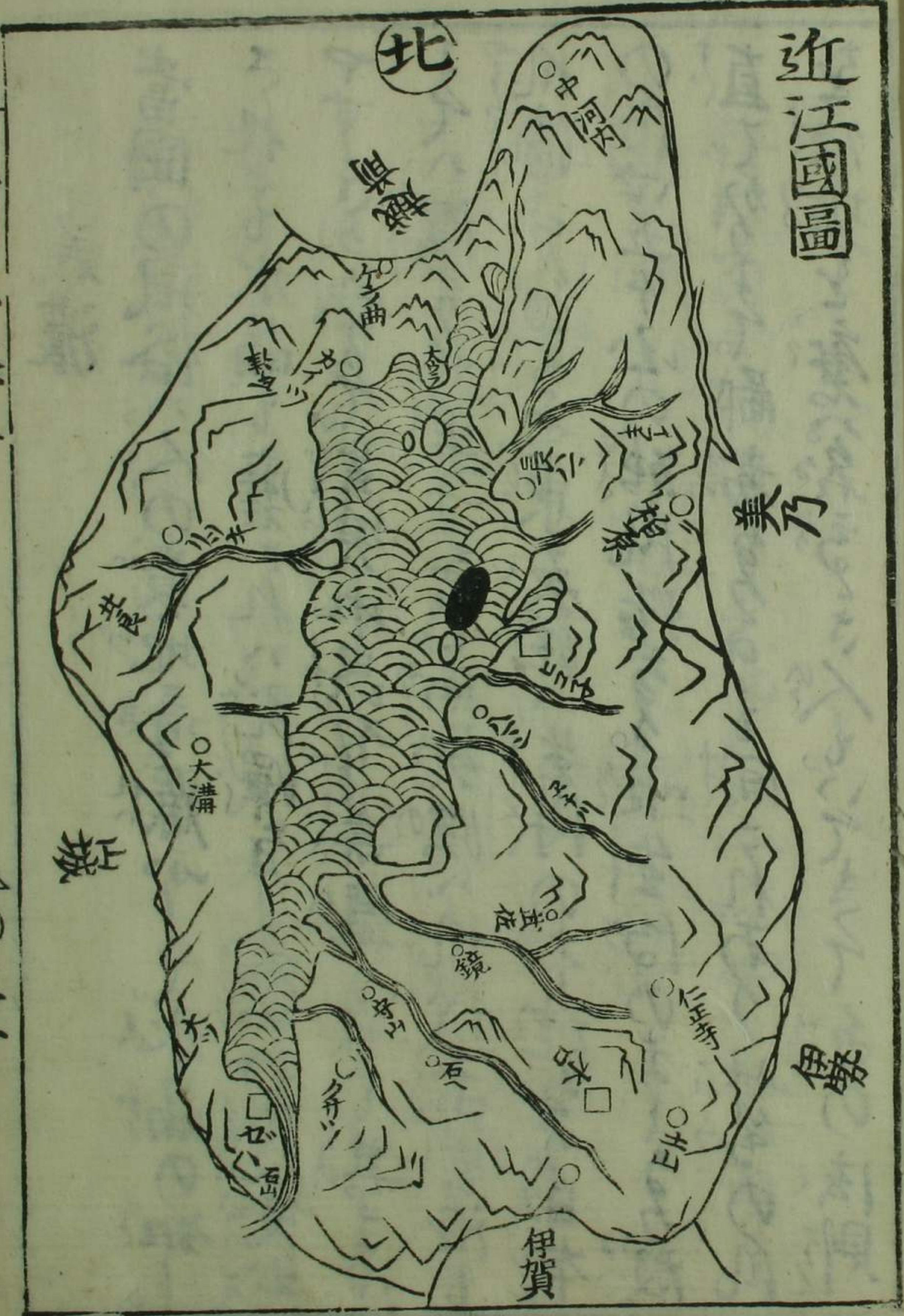


八國記卷上

八國記卷上

のそくくさハ。まさしくりりれハ。ちり。とそ。
 按に。蜀ハ山川多中。大江を湛て。衆水と合集
 以。大田。南北東西。風出。少異。多。北。北。西。北。
 ぐき。を。烈。西。亦。偏。僻。東。ハ。彦。根。方。ハ。南。ハ。
 蜀。全。の。都。多。了。を。暑。多。く。を。多。く。風。亦。多。く。
 民俗。本。書。備。れ。る。

近江國圖



人国言卷一

二

義濃

當國の風俗ハ人の意地奇廉少して水晶の如し。されども水晶も磨されハ光澤有。磨ハ即光出やすきものあり。生質水貝有。奇廉多ても其まろろくハ璞より果すを。西次流ハ風俗柔言活も風俗ニんゆち也。東次流ハ生得の本地なり。日本の内口五ヶ岳の能風俗なり。吐生はのまろくなり。故直をかりよ。鄙考なり。同これあり。世等の風を能垢と磨ハ名もさ人も。そきて外の法則

ともありへーとそ。

按に當國ハ大國なり。北東ハ山深也。亦山あり。南を用。廣系水田多。本當飛澤はよく丸。其水清流あり。川堤多く。衆水會流。て。伊勢の海より入。寒暑山中ハ北國にお。と。南ハ自中あり。凡俗女書。説く。直なる民俗なり。北山中ハ大嶽岫の地多。甚良丸郡。俚本受あり。

大嶽岫圖

美濃國圖



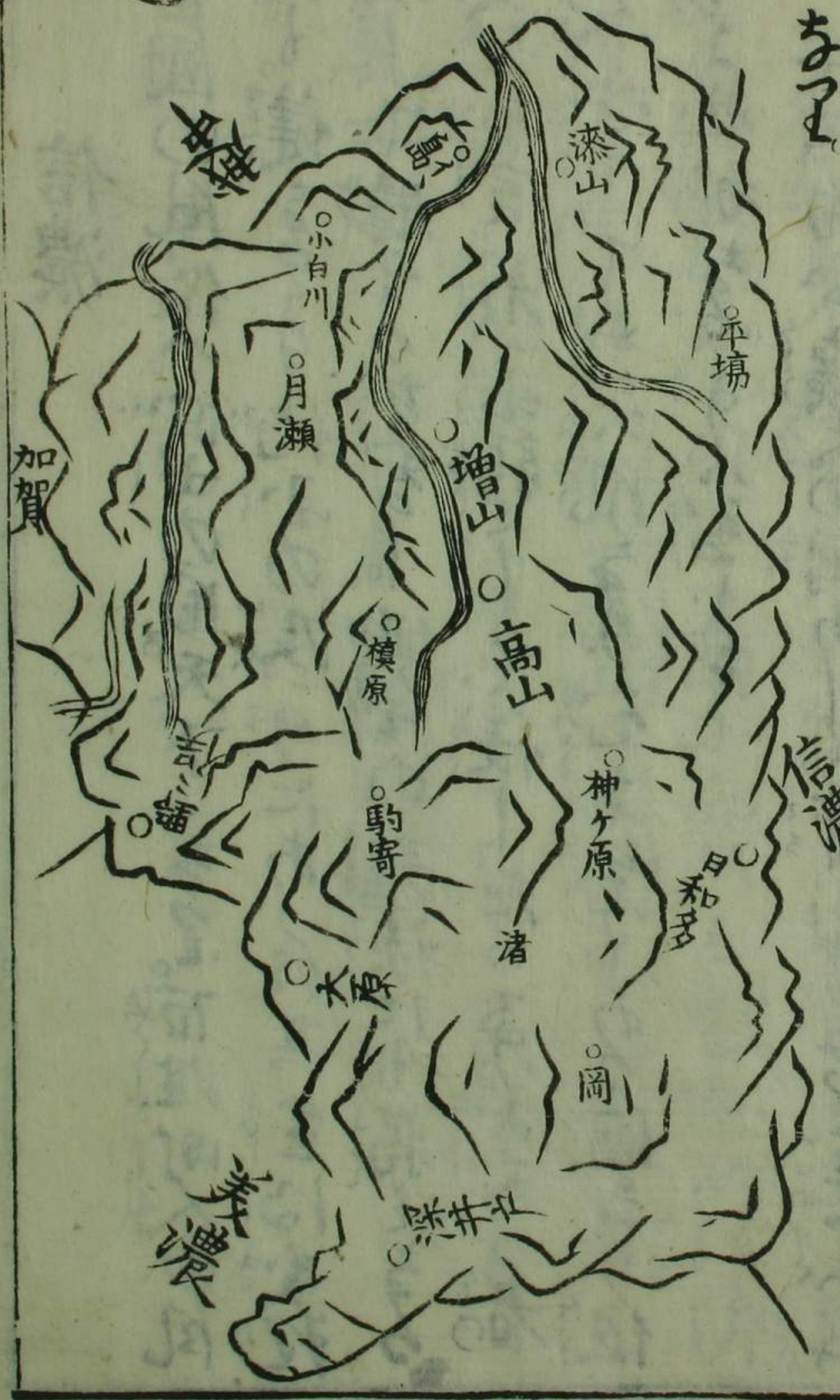
飛驒

當國の風俗ハ。健直不^レ_レ。愚^レ不^レ。日本ハ廣^レと^レ只^レ。
 我^レ國^レ不^レ如^レ。他^レ國^レの^レ。井^レの^レ。
 中^レの^レ。是^レ愚^レ。是^レ愚^レ。是^レ愚^レ。是^レ愚^レ。
 得^レハ石^レ洪^レの^レ性^レ。

按^レ南^レ玉^レハ。東^レ海^レ南^レ北^レ皆^レ山^レ。谷^レの^レ民^レ。心^レ杖^レ他^レ不^レ。帝^レ都^レの^レ番^レ。其^レ不^レ。是^レ山^レ谷^レの^レ秀^レ氣^レ集^レ。

小^レ自^レ。工^レ垂^レ。石^レ垂^レ。月^レ垂^レ。乃^レ。實^レ。是^レ。

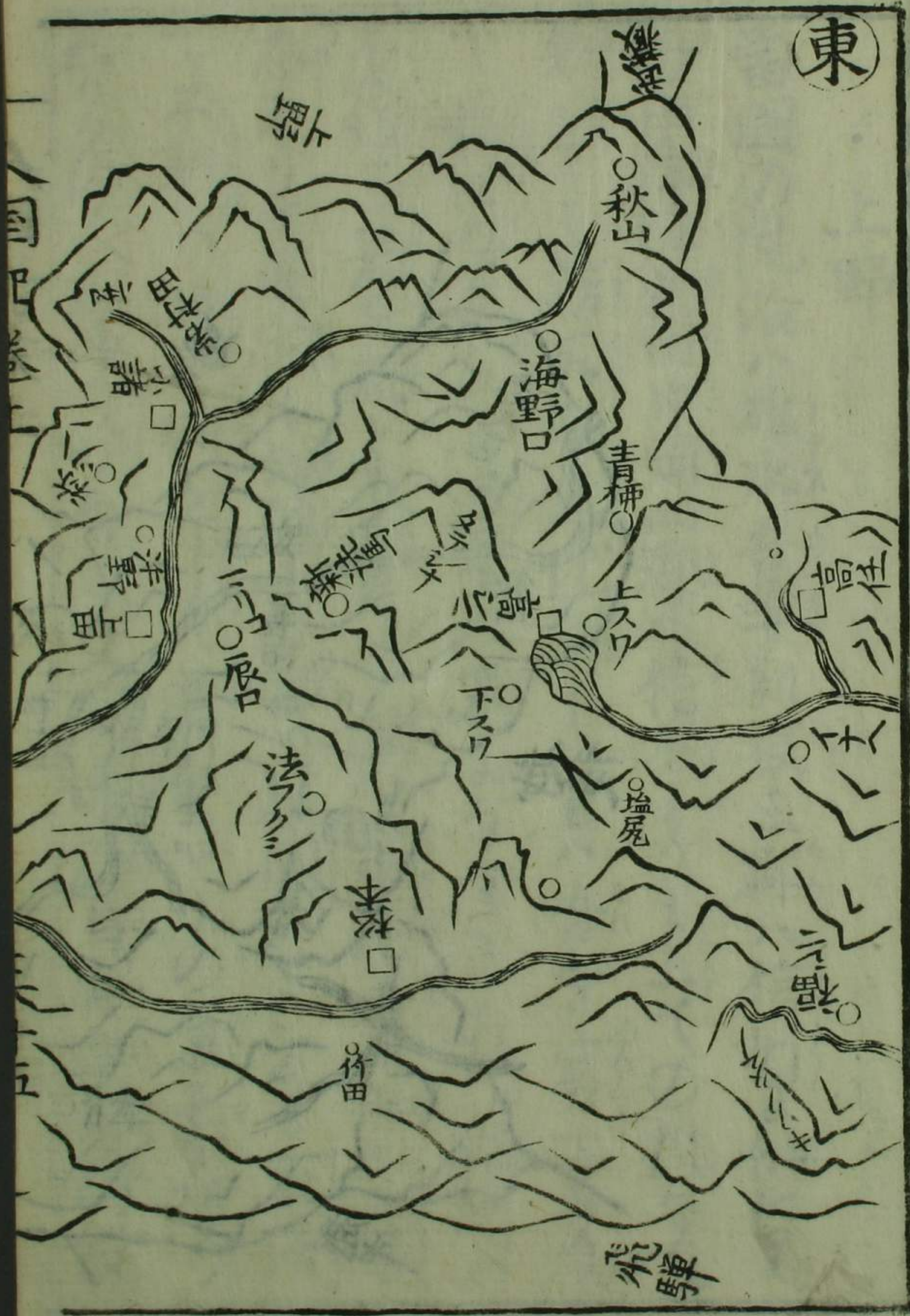
飛驒國圖



信濃國圖



東





上野

當國の風俗ハ。碓氷吾妻利根三郡ハ信州ニ似たり。
 勢田佐位新田片岡四郡ハ信州よりも上ての風あり。
 然れども諸所の意地あり。譬ハ吾妻と菅原あり。
 て信心なき故小忠も大罪あるすあり。信州ハ
 石碓弓矢を取とも。負ても氣を不屈必此恥を雪
 志ありて。我々も出陣一遂く。此國ハ二三も取保
 て不利ハ能く別とす。差室やうの氣象あり。
 去るゆへ去るゆへあり。又邑樂郡馬井樂多胡緑

野那波山田等の牧郡ハ一乳物として一人を
えけまをハ諸人等をひとりとして一黨する氣象
ありて進退人とかえざる。凡そ一とそ。

按に。苗圃も山岩多く甚大圃あり。法山源加
流氷亦おほく。山又の糸。峻阻要害の所を
坂東の圃の中にて。地形さうく。度夫として。用
たる地も多ゆへに。上野の軍と云ふや。山入ハ皆
寒烈し。民俗本素の正流のまじり。人心堅固
あり。志うかに。上列監。懐ふも云へる。を比ま

旅客の齎金を奪取。狼よ人を殺害するやう
の風ありて。世人是を恐る。是皆勇氣の過り
あり。今四海昇平ありて。人心皆善ふ。而
ゆへも。彼邊城の風も改りて。本國の生る
ふ。ありぬと云くたり。

上野國圖

人国言卷上

三十一

上野國圖



陸奥

當國の風俗ハ日本の偏鄙なる所に人の氣ゆき滞
 て氣質の倚尖ありと万丈の岩壁を見り如し。遍
 道理を知り。前此を改むるあり。譬ハ江水の流滞。
 麿芥積て流むるをなきごとし。因之若人と呼ばるの
 人不中なるあり。衣の生ひありたのりきりもあらず。
 又なさけなき風も有り。廿四郡の内。何れも二三三
 不風俗の加らぬあり。大樞け類あり。廿四八日の
 こよのゆに色白くして眼青なる。人の形相最賤し。

て。言詞卑劣なれども。勇氣ハ日本より比ぶもあるまじ。
 因之を若の死をむる者も。但偏僻なりとす。其さ
 比潔白なる所有り。女ハ容兒色白髪長顔うらやみ。
 但形相音声すくれて。鄙劣なり。去れども其心底の
 貞正なるあり。ハ外の男子も。猪り。凡當必及。如羽
 上野下野と総下総常陸等。大駭人の音声。上胡み
 多る。志うるあり。倭執多るあり。差島所のみ。大くこふ
 勤心。思慮分別の深きあり。殊小此國牡鹿郡。載
 廉角階と津軽宇多。救郡の人。別て楚忽のあり。

まじりたる風ありと云

按に高天原大國より所々の異なる風を云はれども
 元山お月と云り。民俗本書に詳あり。會津
 ハ白川より西へ入。遠山山谷お鏡なる國あり。西へ越
 渡り清く。寒烈雪深なり北國より勝たり。岩鏡
 相馬 相馬八所の本名に非ず。総州の郡名あり。相馬次郎師常領此地住居より自名と云り。 八東の海濱あり。
 加ふるより定後。白川二本松赤松三喜白石
 福崎等の所々。皆山中の形と氣あり。仙臺の如く
 尚時磐岳の地よりなり。凡て上國に習く。奥

郡に至てハ南部 是亦一所の本名に非ず。甲州の在名あり。南部某領之自名也。 ハ仙臺よりを
 尖小。寒烈雪深。津輕ハ南部よりも亦烈。其風出
 随て。人心を自別する。松前ハ蝦夷より。風
 復又異なり。去れども。本書より説く。一偏此
 鄙屈あり。夏ハ各加り。古昔ハ奥の夷と
 て。人倫も不通。禽獸のとき。風あり。ハ中古
 上國の人君長とあり。政治を施す力あり。其風
 化せられ。ものづら。人君の意も去れ。其風
 ハを比まて。ハ民家より。子と云り。ハと云り。

齋子三乳ふ及ぬれハ其父母これと經殺ハ人是
 と何やしまハ父母も亦怖れとて。惻色あ。こも不
 仁なるや。實は夷狄の風をう。い。誠仁風の毒
 及へりや。殘虐の俗化。今其の。

陸奥國圖

自白川西會津境

上野

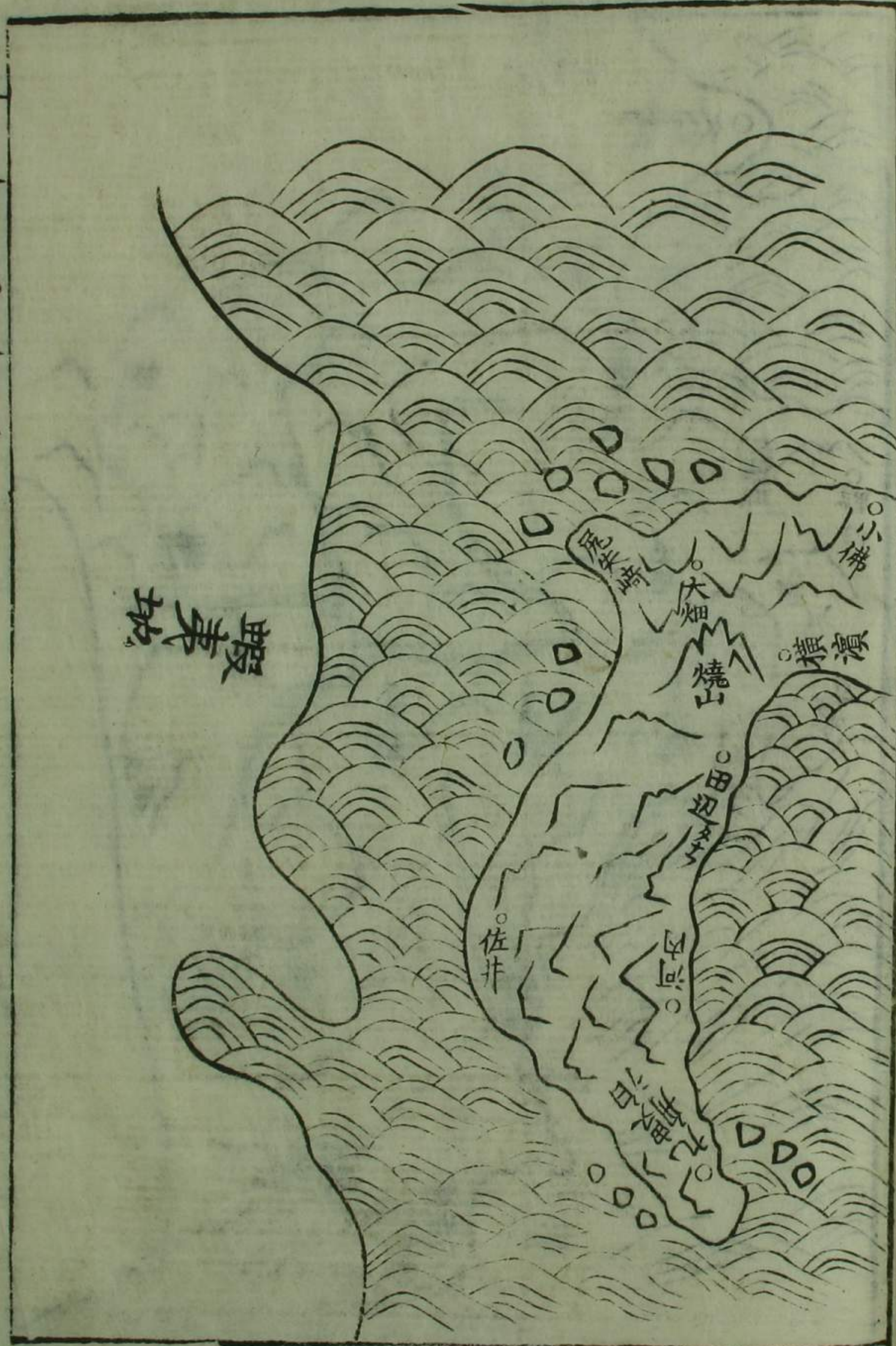


東



出氏

越後



東





出羽

當國の風俗ハ奥州おくしゅうハ大縣おほのぐん加ふる多あり。去るれども。奥州おくしゅうより。健義けんぎあり不ふあわやて。智ちも亦また上あがりまると。武士ぶしハ忠孝ちゅうこうの志こころざしありて。下しもを使つかふ法りやうを少すくはし。下しも筋ぢんハ上あがりをうやまふ心こころあり。百姓ひやくしやうハ地歌ちかを礼れいむ心こころ入いれありて。氏うぢ我地わがちををかこす。たのむべき亦また有あり。我國わがくにハ遠とほく偏へん系けいて。所ところ小こ向むかひて。うきまのこも。人々ひとびとあり。礼れい兒この風俗ふうぞくあり。ありとて。

按おしふ。南みなみ西にしハ西にし向むかひたり。回まわりて。東あづまハ限かぎりなき。係けい係けい山さん冷ひや。

岨しづみ小こく。甚たゞ寒ひや。雪ゆき亦また深ふかく。奥州おくしゅうに比ひべさたる。大おほくなれハ。所ところ々々異ちがひあり。風かぜもあり。民俗みんぞくを喜よろこびに詳あらわし。海うみ辺べの風かぜハ。亦また。海うみ風かぜあり。人ひとの容よう貌ぼう。言こと。皆みな。極たぎり。卑ひ者ものあり。

出羽國圖





北陸道七國

若狭

當國の風俗ハ人の氣相和するものあり。意くの
 狹まり。昨日ハ睦かを信る中も。今日ハ疎なりて。其
 非と奉ふ風多り。下として。上を欺。已か科を正され
 て。却て人の不法のまうに云る多り。取廻利敷なる
 加指尚の弁舌。一花の氣勢ハあれとも。根の毒なる不
 有。三方郡ハ江州の風にひとごとそ
 按尚ハ北に向ひ。海濱をうけ。む山を負ととも。

只一重なる國ゆに。自人の心根をうりかす。
 凡俗厚多あり。寒國多。

若狭國圖



越前

當國の風俗ハ日本不双なき智慧國なり。上下とも不
 すぐれたる年吉尾州を芳まききちなり。依之高快
 しく。庶幾地悪し。推落あり。一旦たのまきさう
 あり。諸不決れあり。或ハ旅人の海りに行か。舟を
 可んた。僂の劣下を去て。舟のまき。又修り。舟の劣
 不及て。宿を求めども。法れなく。まき。めけ。此四年の
 人わゆ福し。邪智多きこと。まき。へ。と。そ

按に。南國も北西に向ひ。まき。山。海。く。平原も。多し。

寒風雪原。流水。中。に。海。く。て。力。の。自。便。なる
 あり。旅人の心を自。言。快。なり。山川。峻。険。あり。て
 寒烈の。まき。あり。旅人の智。さ。ん。なり。まき。ね。も
 北方の。偏。親。を。凍。り。あり。正。智。あり。く。邪。智。多し。
 本。事。云。盡。せ。る。此。の。海。風。を。まき。一。た。へ。
 敦。賀。郡。ハ。風。を。と。別。る。也。

我々人の風あり。されども物ごと懈怠^{けだいな}からあま
 り。我々一^{わが}分^{ぶん}あり。ままお氣ありとそ
 按に。高風^{たかかぜ}ハ西海より向^{むか}山^{やま}を肩^{かた}て。ま^まおひら
 きたるゆゑ。民俗^{みんぞく}温和^{おんわ}なり。お喜^{よろこ}澤^{たく}なり。寒^{さむ}
 風^{かぜ}を^をし^しと^とも。故^{ゆゑ}来^{きた}より^{より}い^いま^まを^を。

加賀國の風分ハ西海より向山を肩て。まおひら
 きたるゆゑ。民俗温和なり。お喜澤なり。寒
 風ををしととも。故来よりいまを。

加賀國圖



加賀國

五十二

越中

當國の風俗ハ。陰氣の内に。智あると勇あり。信が
 多し。親子の別あても。一言ふことを。災を取ら
 巧に信をさすあり。人の変も。唐意ハ信少して。只
 卒忽のまうまうのやうに。むらゝ意地あり。去れども
 嗔りて不厭死風もあつと云々
 按に。尚且ハ山海して。又海を抱けり。寒烈雪深
 民俗古書に詳あり。

越中國圖

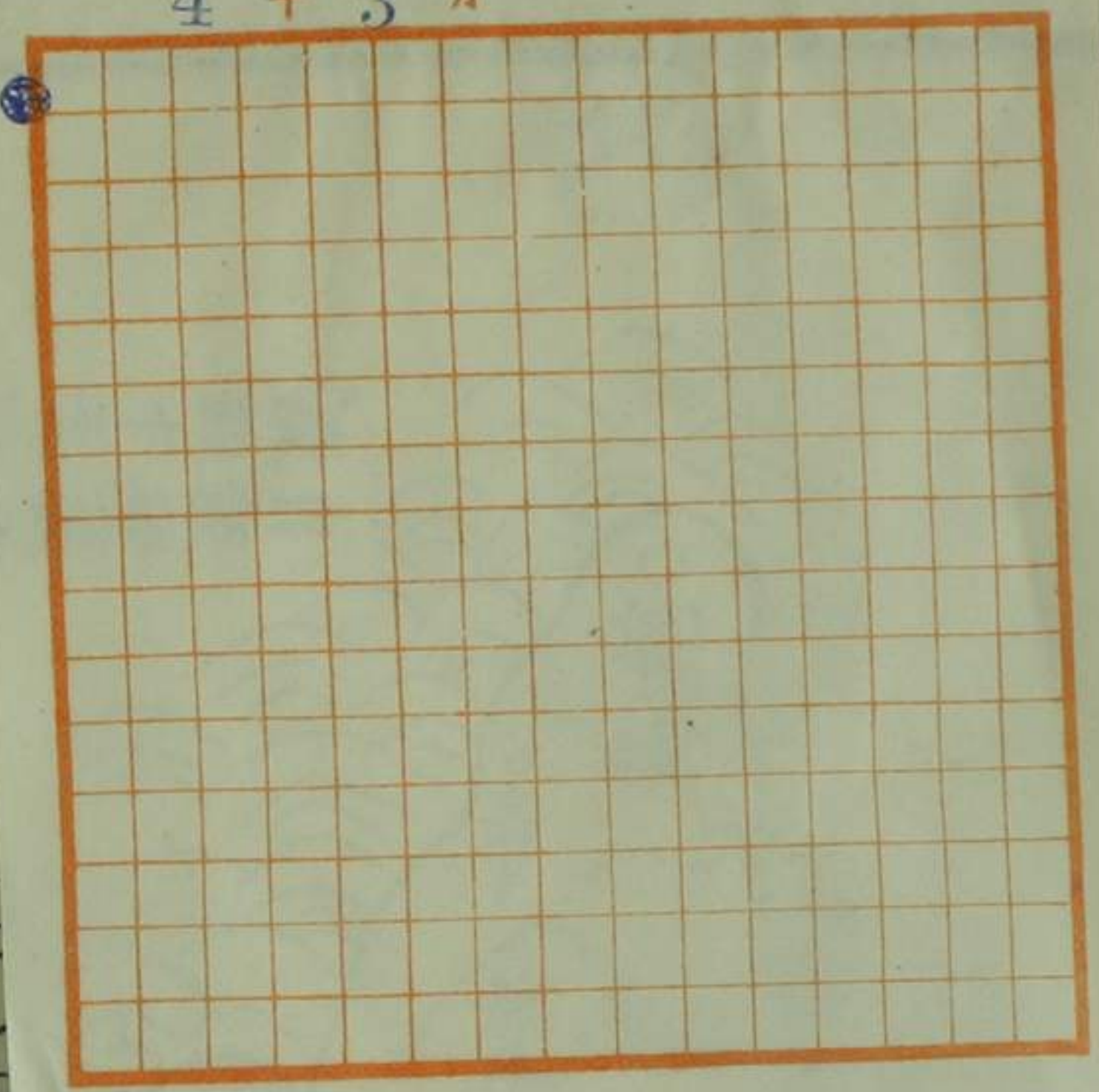


越後

當國の風俗ハ勝手と好氣氣多し。假令少も勇
 と励痛と云ふをハかゆまこと云着躑たどれ痛とほ
 ても只まきぬかきめなりといけなき者の言あり
 かくわくりに強くと教り風多し。腰すの氣ハ少け
 てもさうかつらのほらけはハ。後友の志海つと社
 考あり。主従者互にたのむをれとも道理を弁
 りまされあり。なれゆへに少も志ひて勝んとて
 理化の分別なきを云なりとて。

按に南はハ大國少て。出羽奥州不修き。山陰して
 西北ハ海をうけたる。國中ハ所多く寒氣多て
 烈雪大不修し。上秋後下秋後少の勢ありて下
 ハ秋中を烈。北地も不修あり。一は中の子民
 情心ふりき。今不愛。民俗本書不盡せり。

4年3月



佐渡國圖

八國言卷一



五十八

佐渡國圖

北

自能登至佐渡四十五里



越後

